

よろこぶ

4百万円 可決

第1回定例会

活発に議論の20日間



初日の本会議で議長から負託されたH22年度予算(案)は、3月16日から3日間、施政方針と予算の概要から始まり、議員よりあらゆる角度からの質疑が続いた。日頃から住民の意見を蓄えてあるためか、要望などの意見も飛び出したが、合併後で一番少額の予算でもあり、緊急対策補正で対応する執行部との議論は白熱したものになった。

平成22年度が出発

未来創造計画に期待

地域再生活力と施策の選択と集中

歳入見込み

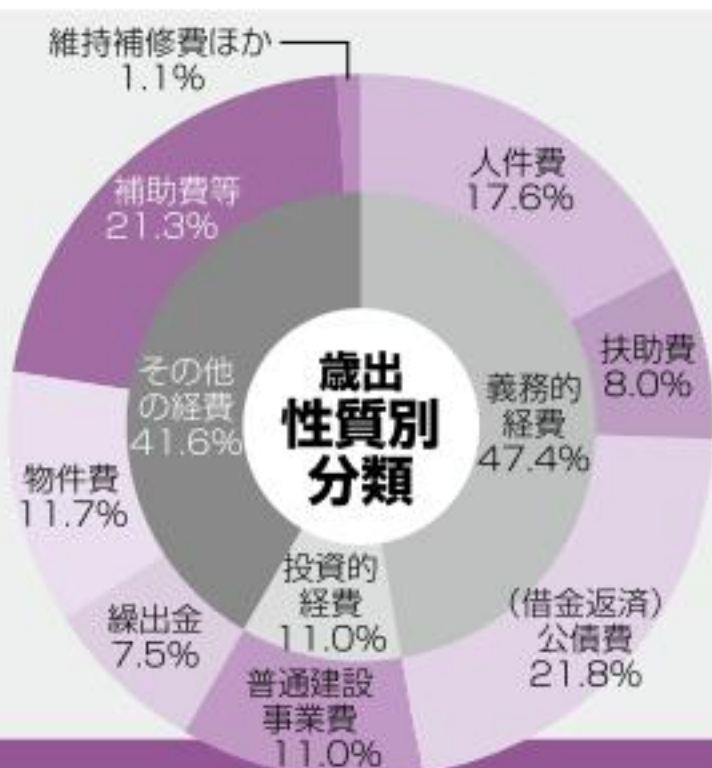
町税は現在の経済情勢の中で増加は期待できず、雇用不安も含め景気の回復に期間を要すと考えられる。地方交付税(国からの財政援助)の配分も総額確保はしてあるが、代替措置の臨時財政対策債に大部分が転化されると想定する。

昨年度の主な繰越金

国の経済対策での事業繰越(きめ細やかな臨時交付金3億超)で地元事業者への受注に努め地域活性化に取り組む。

単位：万円

歳出予算額	
公債費	247,425
民生費	179,406
衛生費	174,944
総務費	165,679
農林水産業費	119,139
土木費	90,829
教育費	84,602
消防費	41,100
議会費	8,457
商工費ほか	21,819
合計	1,133,400



の内訳

(注) 通常、繰越金とは、町の決算剰余金(歳入決算額から歳出決算額を差し引き、翌年度で使用する特別な財源を控除したものであり、実質収支とも言う。)が、ここでは、国の経済対策で年度末に交付金が決定したため、翌年度において繰越して事業を行うもの。

一般会計 11億3千

本町農業の10年先を見通した振興計画の策定。未来創造計画と全町農村公園化の策定にどう向かうのか。答弁ではこれから町民の意見を参考にし、国の動向も視野に入れた計画の検討をする。

11箇所の自治センターが指定管理となるが、住民発意による特色ある地域づくりに具体的な支援を行う。

上水道・簡易水道では西世羅地区の供用開始後、要望路線の管布設の取り組みの質疑に対し、

施政方針と予算に対する質疑

東・中央地区への整備を進めるとあった。

指摘点がポイント

- 駅伝の里の表記がない。
- 将来的に財政負担のいる事業は債務負担行為として示すべきだ。
- 町民課と保健福祉課で共通する事業を一本化し検討すべき。
- 下水道事業と合併浄化槽の見直しを進めていくべき。加入見込みを調査の上で設計してはどうか。



第1回フラワー王国せら高原夢まつり

主な事業(抜粋)

子育て支援として中学校修了前までの子ども手当支給や少子化対策支援を充実し、マイ保育園制度も実施。

集落内に農業後継者を確保するため、月に15万円の人件費助成を行う。ただし法人へのUターン者に限ったもの。企業の農業への参入を促進し活性化に努める。

学校統合にあと一年と迫り環境整備が急がれる。H23年からの新学習指導要領導入への準備が進む。

反対討論

矢山 高齢化・過疎化が進みもっと希望のものをまちづくりが必要。実質公債費比率を18%と言うだけでなく今後10年間の基礎づくりを計画的に進めるべきだ。

安佐 公共工事の予算の組み方にも整合性がないところがある。とにかく町民が納得できる予算にすべき。

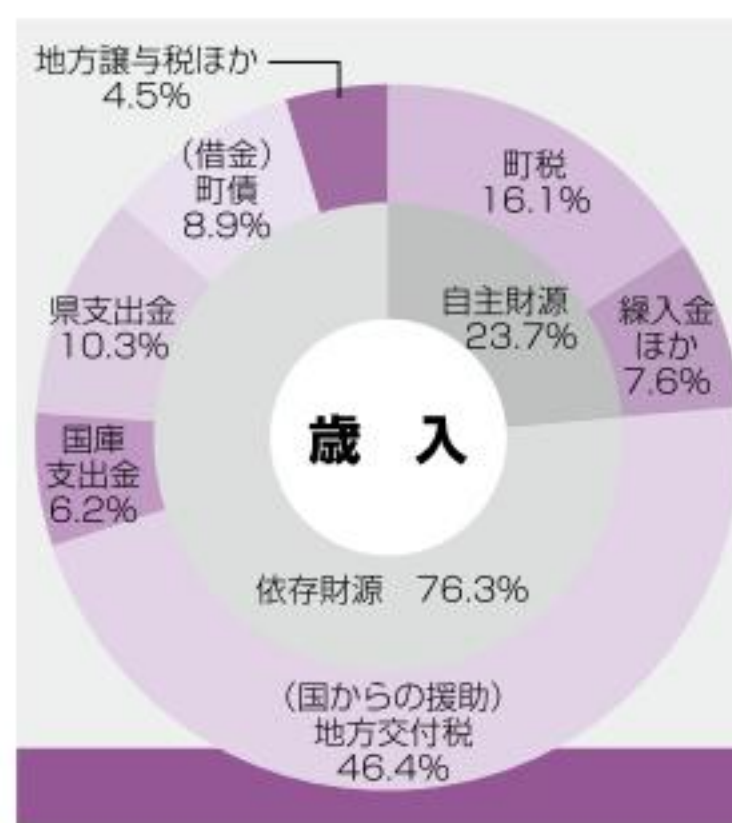
賛成討論

永田 合併後、最低額で提案された。取り組み課題は山積。歳出面を再度精査され、従来の概念にとらわれず、サービスの後退を招かないよう努力を重ねていただきたい。

福田義 汚水処理計画により、町の中心部には上下水道のライフラインの整備により発展が可能となる。加入促進も含めサービスの公平性の確保が必要。

西田 財政健全化への道筋が見通せる予算。経常経費削減で得た額で最大の効果を生み、予算審査で指摘した事項に基づき執行されたい。

徳光 全町農村公園化をはじめ子育て支援・地域医療・高齢者福祉や農業振興に新しい希望もてる予算となっている。



歳入予算額		
町 税		182,334
歳入金ほか		86,264
地方交付税		526,000
国庫支出金		70,683
県 支 出 金		116,330
町 債		100,300
地方譲与税ほか		51,489
合 計		1,133,400

一般会計